



## 2.5 人称の視点で

園長 笛木 哲

本園では、毎朝8時に、打ち合わせを行っています。その最後に、司会者の職員が「今日の一言」を発表します。1分にも満たない短い話ですが、職員の人柄や物の見方、趣味や経験などが垣間見られて、私の好きな時間の一つです。先日、ある職員が甥っ子の話を聞かせてくれました。彼は幼稚園の年長児。これから秋の運動会を迎えます。背の高い彼は背の順で走る全員リレーのアンカーです。それほど足が速くない彼ですが、前を走るお友だちが速いので、今までの練習ではいつも1番でゴールしています。そんな甥っ子をもつ母（職員の姉）の気持ちは複雑です。「もしうちの子のせいで負けたなら…」と単純に1位を喜んでばかりはいられません。一方で職員は、年長を担任したとき子どもたちに勝たせたくて、ご家族の気持ちに思いを寄せる余裕もなく「叱咤激励、はっぱをかけていた」というのです。保育者の立場と母の立場の違いに気づいた「今年の夏の思い出でした。」と話をまとめました。

彼女の話聞いて、私たち保育者は、教育者（第三者）としての視点だけでなく、家族（当事者）としての視点を併せもつことで、血の通った温かな保育となり、専門性を発揮できるのだと、強く感じました。



数年前、卒園間近、ご家庭の事情で退園した園児がいます。一生に一度の卒園式ですから、「卒園式に参加なさいませんか。」と園長の立場でお声をかけましたが、「自家用車がなく、公共交通機関も不便なところのために残念ながら卒園式には出席させることが叶いません。」との回答をいただきました。その時のことを理事長は、「あの時（副理事長の立場であった）、私が迎えに行くので参加させましょう。」と職員会議で発言できなかったことが今も悔やまれる。一生に一度の卒園式を皆で祝ってあげたかったのに申し訳なくて。」と話します。私のように、「そうですか」と切り捨てることは簡単ですが、「なんとかできないか」と頭を巡らし、その時の痛みを今も引きずっていることに強く胸を打たれました。保育者は、素晴らしい指導力をもつことはとても大切ですが、それと同じかそれ以上に、子どもやご家族に対する人としての温かみや豊かな感情をもつことも、保育者としての大切な資質だと感じました。

## こどものことば

○カタツムリを見ていた子。「後ろから見ると気持ち悪い。だって、ウンチをしているんだもの。」「生きてると、みんなウンチをするよ。」「僕のお母さんのウンチはね、緑だよ。（きれいだよ）」 母親(祖母)のまるごと全てが子どもにとって特別で誇らしい存在です。その全てが愛する対象です。



**お知らせ**：緊急事態宣言が解除され、感染者数は減っていますが、本園では引き続き、9月にお知らせした内容での感染防止対策を継続します。ご協力をお願いします。

## 魔法のことば

教室のピアノの鍵盤蓋には、子どもが触っても蓋がボタンと閉じないようストッパーが付けられています。それでも、子どもが手を伸ばした上に蓋が降り、その上を誰かが押し付けたら大変なことになりますから、ピアノでは遊ばない約束になっています。さて、ピアノに興味を持った小さな子が、蓋を開けたのを見た時、皆さんならなんて声を掛けますか？ 私なら「触っちゃいけない約束でしょう！ダメ。」と叱ってしまいます。ところが私の見た保育者は穏やかな声で「ピアノに食べられちゃうよ。」と声を掛けしました。すると子どもは、「それは大変だ」という顔をして手を引っ込めました。

お迎えのお母さんが靴を履かせようとする、イヤイヤ期なのではないかと足をバタバタさせ、泣き叫んで駄々をこねている子がいました。お母さんが困っていると、保育者が「〇〇ちゃんのお靴はこれ？」と他の子の靴を持ち上げます。すると、「違うよ。これが私の（靴）。」と自分の靴を取りに来ます。「アンパンマンの靴下を履くと、靴も喜ぶね。」と言う言葉で笑顔になった子に、靴下と靴をさっと履かせてしまいました。

叱るのでもなく、無理強いさせるのでもなく、子どもの年齢に応じた、子どもに伝わる言葉や動作で気づかせ、その気にさせる保育士のテクニックに感心しました。

### 園児が輝く時

※HPで「笑顔の子どもたち」を紹介しています。よろしかったらご覧ください。



かけっこ・全員リレー 競争は、1位・2位…と順位がつきます。かけっこやリレーの場合、努力すれば速く走ることができるようになりますが、相手も練習します。だから努力が結果として表れないこともあります。「1位になったら〇〇を買ってあげる」と目の前にご褒美をちらつかせることもあるでしょうが、結果ばかりに目を奪われると、それまでの「がんばり」は無駄であったと思い、努力するよりも諦めることを選ぶ子が育つ気がします。大切なのは、年長の全員リレー（3度目の練習の写真）のように、たとえ順位は最下位でも、最後まで全力を出し切る子を育てること、足の速い遅いよりも気持ちで負けない子を育てることが大切だと思います。もちろん一位になったら素直に「おめでとう。きみは自慢の子だよ。」と言ってあげてください。



9月スタートの ちゅうりっぷ組 大好きな母親の手を離れた子が、たくましく育っています。

新しい仲間とスタート ひよこ組 作品を自分で手に取り、「見て！」と自信たっぷりです。

感染防止対策 食事時の飛沫感染を防ぐために、パーティーを導入しました。